



INDEX

機構長あいさつ

学術研究・イノベーション推進機構 (IMO)
機構長 / 理事 (研究担当)

藤江 幸一

社会価値創出にむけて

IMO について

IMO の目的と機能

メンバー

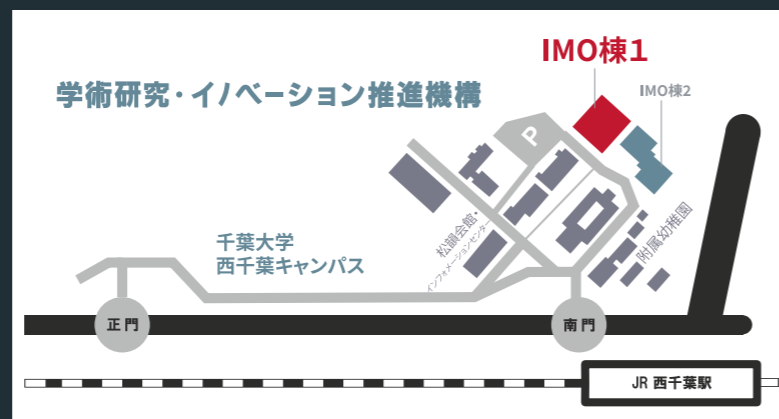
組織図

スペース利用

学術研究支援の一例

産学官連携支援の一例

スタートアップ支援の一例



Ad Altiora Semper
Always Aim Higher

国立大学法人 千葉大学

学術研究・イノベーション推進機構

Academic Research & Innovation Management Organization (IMO)

Location

〒263-8522

千葉市稲毛区弥生町 1-33

千葉大学 西千葉キャンパス内 IMO棟1・2

お問い合わせ先

Tel: 043 290 2156 Fax: 043 290 2038

Web: <https://imo.chiba-u.jp/> Email: ccrcu@faculty.chiba-u.jp

2024年6月版



<https://imo.chiba-u.jp/>

IMO

Academic
Research & Innovation
Management Office

学術研究・イノベーション推進機構

CHIBA
UNIVERSITY



学術研究・イノベーション推進機構 (IMO)
機構長 / 理事 (研究担当)

藤江 幸一

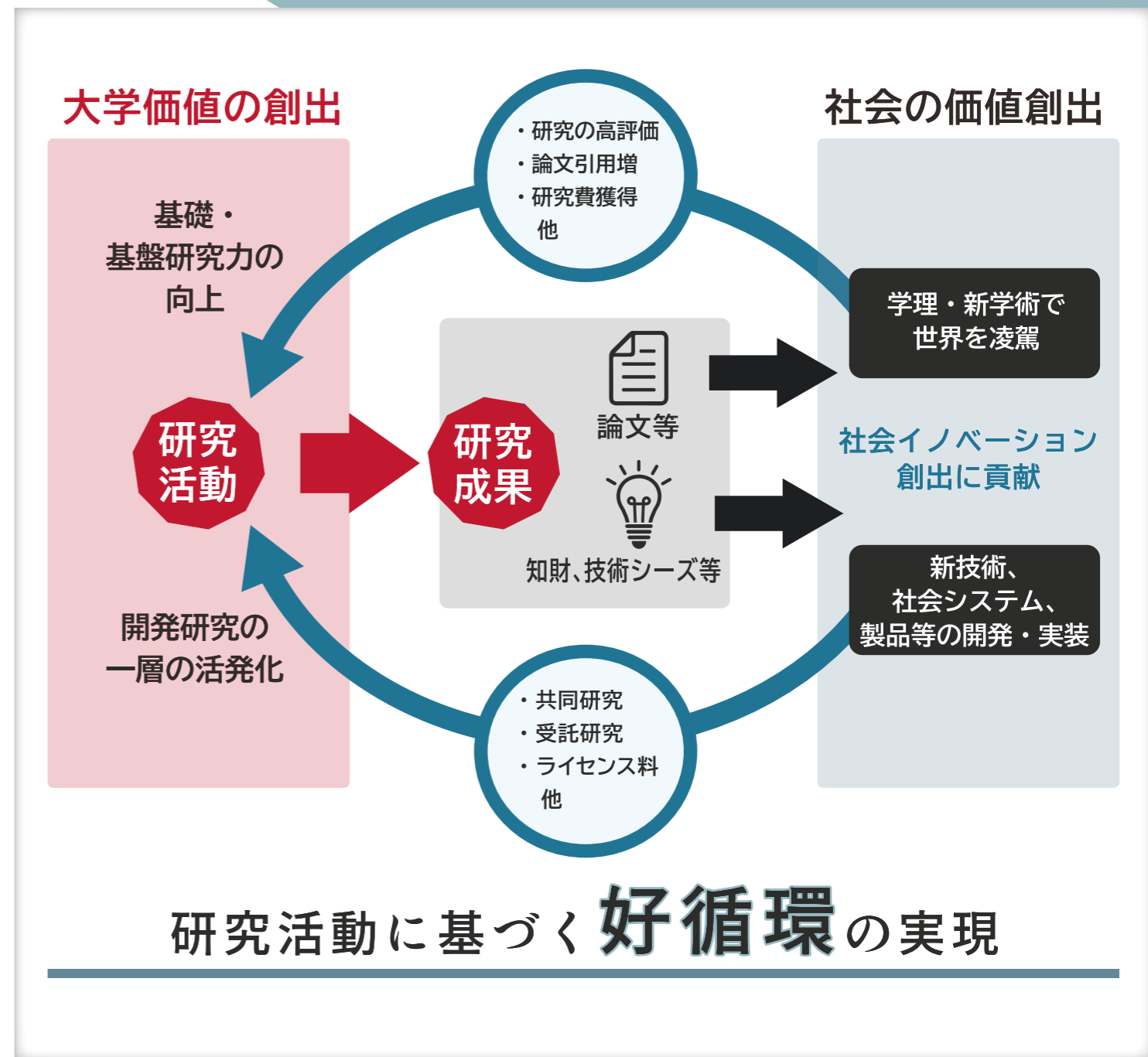
Koichi FUJIE

千葉大学は、研究支援・産学連携機能の強化とイノベーション創出を加速する目的で学術研究・イノベーション推進機構 (Academic Research & Innovation Management Organization: IMO) を設置しました。

IMOでは研究推進部とリサーチ・アドミニストレーター (URA) が連携して最先端研究の推進を支援するとともに、企業様等とのコーディネート活動の一層の強化によって、社会価値創出のための様々な取り組みを実施する体制の整備と強化を実現して参ります。

皆様からのご相談については、各分野の専門知識を有するURAと大学スタッフが連携してご対応させていただきます。

社会価値創出に向けて



研究活動に基づく好循環の実現

IMOでは、大学における共通価値の創造 (Creating Shared Value: CSV) を推進しています。高い質の基盤的研究成果がもたらす学理・新学術による社会貢献は、大学に対する高い評価やさらなる研究費の獲得増に繋がります。

研究成果がもたらす知的財産や技術シーズは、製品化や技術・システムの開発・実用化を通して社会価値創造に繋がります。

ライセンス料収入、共同研究・受託研究の増加や、基盤的研究および開発に欠かせない情報・知見等の獲得は、大学の価値向上への大きな推進力となります。

研究を通して社会の価値と大学自身の価値の向上を併せて実現するためには、社会の選好性 (Social Preference) の的確な認知・把握 (Perception) も欠かせません。

「つねに、より高きものをめざして」の理念のもと、11学部を擁する千葉大学では、積極的な分野横断 (Transdisciplinary) による新領域開拓を推進しながら社会価値創出に貢献してまいります。

IMOの目的と機能

大学は社会の一員として社会価値創出への寄与が強く求められています。世界規模で社会が激しく変化の中で、社会価値創出を持続的に実現していくためには、大学が国際頭脳循環の中核として最先端の研究を弛まず展開し、その成果に基づいた科学技術の進展、そしてその活用によるイノベーション創出が不可欠です。多様な側面における我が国の国際競争力強化にも貢献できます。

本学ではこのような社会的要請に迅速に応えるために、研究支援・産学連携機能の強化とイノベーション創出を加速する目的で学術研究・イノベーション推進機構 (Academic Research & Innovation Management Organization: IMO) を設置しました。

IMOではUniversity Research Administrator (URA) が研究推進部と連携して最先端研究の推進を支援するとともに、企業様等とのコーディネート活動の一層の強化によって、社会価値創出のための様々な取り組みを実施する体制の整備と強化を実現して参ります。

メンバー Member



副学長 (研究担当) / 医学研究院教授
齋藤 哲一郎
Tetsuichiro SAITO



副学長 (研究・産学連携担当) / 園芸学研究院長
百原 新
Arata MOMOHARA



副学長 (研究・地域連携担当) / 理学研究院教授
服部 克己
Katsumi HATTORI

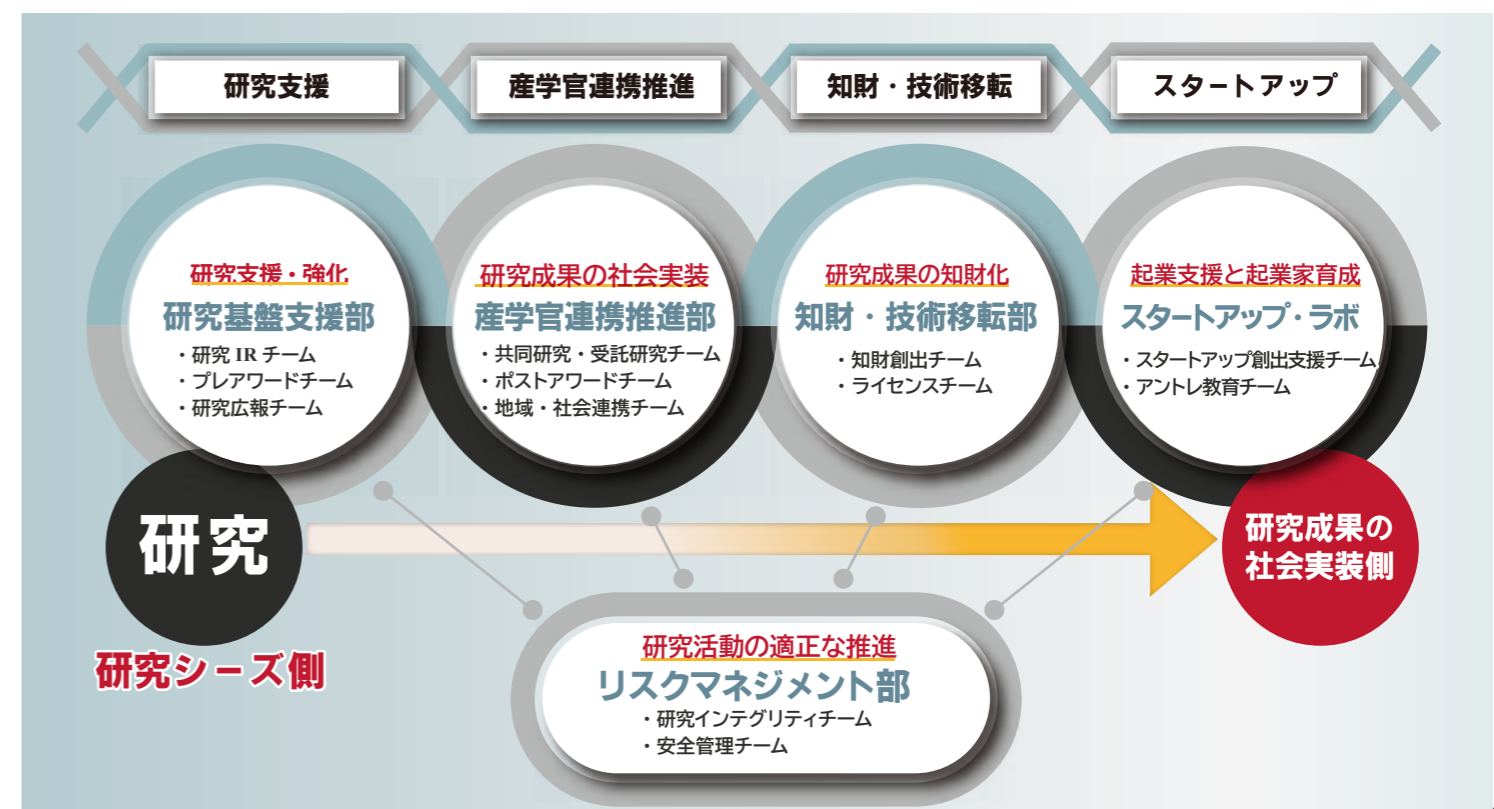


副学長 (研究・地域中核担当) / 医学研究院教授
中島 裕史
Hiroshi NAKAJIMA

IMOは機構長のリーダーシップのもと、研究力強化と研究成果の社会実装を通じてイノベーション創出に努めます。

副機構長 / 名誉教授

西田 篤司
Atsushi NISHIDA



スペース利用

千葉大学 IMO はイノベーション創出のために大学の様々な設備・施設・スペースを提供しています。

コワーキング
スペース

提携企業様等の共用スペース

IMO I棟
2階



イベント
ルーム

IMO I棟
1階

多目的な用途で利用できるイベントルーム



WEB会議ルーム



ミーティングルーム

オープン
イノベーション
スペース

IMO II棟
1階

中小・ベンチャー企業様等、起業家学生などの交流を目的に、一般の方も利用できます

他にもいろいろ 千葉大学の利用可能スペース・共用機器

◆千葉大学知識集約型共同研究拠点 (KCRC)

◆千葉大学サイエンスパークセンター (CSPC)

◆千葉大学共用機器センター

◆千葉ヨウ素資源イノベーションセンター (CIRIC)



スペース利用



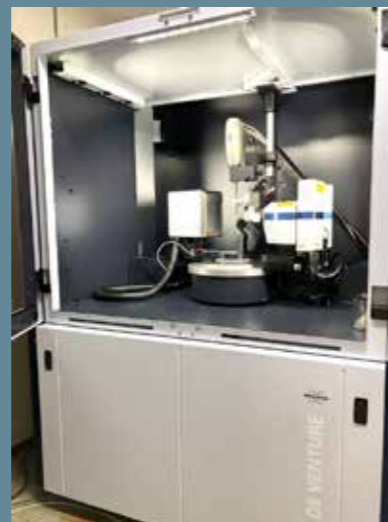
核磁気共鳴装置 (NMR) ※CIRIC



顕微赤外分光光度計 (IR) ※CIRIC



透過型電子顕微鏡 (TEM)



X線回折装置 (XRD)



質量分析装置 (MS)

研究支援の一例

研究支援

学際研究領域を開拓する世界水準の学術研究や、新たな価値を創造するイノベティブな研究を推進するため、以下の支援を提供しています。

若手研究者・
大学院生支援

若手を中心とする研究者、大学院生、学生の研究力向上のため、大学独自の取組を企画・運営しています。

- ・ 国際高等研究基幹 (IAAR)
- ・ JST 創発研究者支援
- ・ JSPS DC1・DC2・PD 獲得促進支援など



国際高等研究基幹 創発的研究者支援事業

政府系資金
獲得支援

公募情報提供、事前相談、申請書作成支援、模擬ヒアリング開催などを通じ、研究者の外部資金獲得支援をしています。

研究広報

千葉大学の研究成果を、外部メディアやIMO他のウェブサイト等を通じて幅広く発信していくための支援を行っています。

論文プレスリリースの審議

学術誌に投稿された本学研究者の論文に関するプレスリリース作成を支援しています。

千葉大学研究メディア
CHIBADAI NEXT (チバダイ・ネクスト) の
企画・運営を企画部渉外企画課広報室と
協働で行っています。



CHIBADAI NEXT の企画・運営

研究インフォグラフィック

研究をアピールする研究インフォグラフィック作成サービスを推進しています。



CHIBADAI NEXT
研究インフォグラフィック

研究IR

千葉大学の研究活動に関する情報を収集・分析し、研究力強化のための戦略を企画・提案いたします。

研究成果・
競争的外部資金等の各種調査

中期目標に係る
評価指標の検討・算出

BI ツールによる
研究力の見える化

技術相談、学術指導

企業様等が直面する技術的な問題に対し、その解決に適した教育・研究者を紹介し、個別の相談にお応えする制度です。

ご相談内容 新事業の立上げ、新製品・新技術開発や生産技術・工程の改善、製品の品質や機能・性能の科学的評価等、様々な技術開発のご相談に応じます。まずはお気軽にご相談ください。

期間 ご相談内容や対応する研究者のスケジュールによります。

共同研究

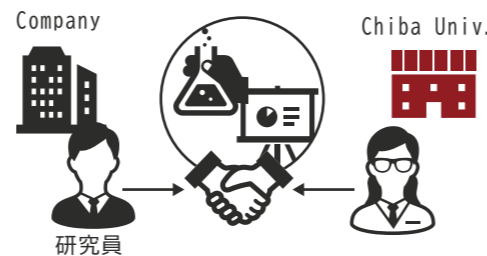
企業様等が持っている技術力等と本学の教員が持つ研究能力を集結し、共通の課題について共同で研究を実施することにより、優れた研究成果を挙げる制度です。

主な経費

- ・ 直接経費
- ・ 間接経費
- ・ 戦略的産学連携経費

期間 1年から5年程度で期間を設定できます。

知的財産権の取り扱い 共同研究契約書に基づき定められますが、原則として知的財産権は発明者が所属する機関または発明者に帰属します。



共同研究講座・共同研究部門

企業様等からの資金・人材提供により、大学内で共同研究をする組織を設ける制度です。

主な経費

- ・ 直接経費
- ・ 間接経費
- ・ 戦略的産学連携経費

期間 原則として2年以上5年以下としますが、更新も可能です。

知的財産権の取り扱い 原則として知的財産権は発明者が所属する機関または発明者に帰属します。本学と外部機関に所属する研究者が共同で発明等を創造した場合には、本学と外部機関が協議して知的財産権の持分を定め、共有の知的財産権として出願等を行います。



知的財産

本学が保有する知的財産の活用を希望する企業様等へ、その知的財産の技術移転や更なる共同研究により、ビジネスへの活用をサポートいたします。



本学の研究・技術の活用についてご質問などございましたら、IMOまでお気軽にご相談ください。

技術移転活動成果の例

共同開発

(連携先：(株)石原産業)
青色コチヨウラン：企業様が単離に成功した青色の遺伝子を使い、本学研究室が4年かけて開花を実現。



ライセンス

(連携先：サージカルアライアンス㈱及びミズホ㈱)
手術室で患者に向き合っている現役外科医ならではの視点で、医療現場課題を解決した。

共同研究+共同発明

(連携先：(株)前川製作所)
ロボット制御技術を用いて自動で食肉を処理するシステムを本学研究室と企業様の共同で研究・特許取得。



【お問い合わせ先】

学術研究・イノベーション推進機構 知財・技術移転部
chiba-tlo@office.chibe-u.jp

相談会以外でも対応可能です。お気軽にご相談ください。



知的財産情報



知財ライセンスフロー

スタートアップ支援の一例

スタートアップ創出支援

千葉大学は大学発スタートアップ企業様等を支援し、革新的な研究成果を社会に還元することを目指しています。

また、これらの取組を通じてイノベーションエコシステムの形成に取り組んでいます。大学内だけでなく、地域社会との連携や国際的な交流を通じてイノベーションを生み出す環境を整備し、社会に貢献します。



千葉大学の
スタートアップ支援

スタートアップ

本学教員・研究者・学生、千葉大学関連スタートアップからの相談を随時受け付けています。研究成果の事業化、イノベーション創出に対してお悩みがある時は、いつでもご連絡ください。

学内ギャップ
ファンドプログラム

千葉大学独自のギャップファンドプログラム。研究成果の事業化のための資金として100万円/年・件の資金を毎年数件程度審査、選定して提供しています。採択者には本学独自のアクセラレーションプログラムを提供し、大学発スタートアップの創業や研究成果の事業化を支援しています。



学生スタートアップ
支援事業

将来的なスタートアップの創出につながることを期待し、起業に関心のある千葉大学の学生を対象に、大学の枠やエリアを越えた活動の場を提供するプログラム。

スタートアップ
カフェ

スタートアップカフェでは、学生の希望に基づき、学生・研究者等が本物のアントレプレナーと触れ合える会を不定期で開催しています。

広がる
他機関連携

国内外のプラットフォームと連携してスタートアップ支援、アントレプレナーシップ教育を力強く推進しています。

連携機関

- ・ 千葉市アクセラレーションプログラム (C-CAP)
- ・ Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)
- ・ 墨田区産業共創施設 Sumida Innovation Core (SIC)・ Research Studio
- ・ 千葉銀行 等

アントレプレナーシップ教育

研究者・学生のアントレプレナーシップの醸成を目的として、さまざまな教育プログラムやワークショップを提供しています。また、高校生以下に向けた教育プログラムを開発・実施しています。



千葉大学の
アントレプレナーシップ教育

◆学部生・大学院生対象の講義

- ・ スタートアップ概論 A/B
- ・ スタートアップ トレーニング I, II

◆大学院生・研究者対象

- ・ 千葉大学学内ギャップファンドプログラム内ワークショップ

◆高校生対象

- ・ 起業体験プログラム TOKKA

◆小中高生対象

- ・ アントレプレナーシップ教材開発 & 頒布



IMO は、研究で得られた技術シーズを地域・産業界へ積極的につなげ、企業様等の研究・開発パートナーとして、我が国のイノベーション創出に貢献します。

イノベーションパートナー制度

パートナー様との協働で、社会の課題解決に向けた新たなイノベーションを創造するために創設しました。パートナー会員様は、知財の事業化支援、コンシェルジュ支援、人材育成サポート等、IMOのURAによる個別支援を受けることができます。

※URA：研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメント強化等に従事するユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーターの略

- 1 IMO主催イベントへのご招待
企業様向け・学内向けセミナーやイベントへご招待します。
- 2 技術シーズの情報提供
千葉大学の新着特許情報をお届けします。
- 3 知的財産の事業化支援
千葉大学の知財を活用したパートナー企業様の事業化に向けて、その事前の仮説検証 (POC) や試作品製作等、権利活用相談等についても担当 URA が伴走支援します。
- 4 イノベーション創出コンシェルジュ支援
パートナー企業様の技術開発の課題について担当 URA が、課題の整理、課題解決に向けた千葉大学研究シーズのご提案、千葉大学との共同研究コーディネートや千葉大学技術の導入サポート、大型助成事業の獲得支援を行い、イノベーション創出活動を支援します。
- 5 イノベーション人材育成サポート
IMOが企画するアントレプレナーシップや知的財産経営に関するセミナーをご提供し、パートナー企業様のイノベーション人材の育成を支援します。また、インターンシップを希望している千葉大学大学院生等と、その受け入れに関心のあるパートナー企業様とのコーディネートを行います。
- 6 年次総会の参加
年1回開催し、パートナー企業様同士の交流も可能です。
- 7 会員名又はロゴの掲載
パートナー企業様の名称又はロゴを IMO の HP に掲載します。

- 正会員 ①～⑦全ての会員特典が受けられます。 準会員 ① IMO主催イベントのご案内
年会費 大企業：100万円(年度額) ② 技術シーズの情報提供特典
中小企業：30万円(年度額)

イノベーションパートナー制度の詳細な情報については、ホームページをご覧ください



金融機関様のコーディネーターとの連携

千葉大学は金融機関の職員の方へ、客員産学官連携推進コーディネーターを委嘱しています。IMOのURAと連携して、千葉大学の研究成果や教員の知見(シーズ)と各金融機関様の取引先企業様等の要望(ニーズ)のマッチング及びこのマッチングを通じた共同研究を推進します。

